

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
伊勢崎市	豊受地区	令和3年3月31日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	241.3ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	146.5ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計(法人の耕作地は含まない)	39.7ha
i うち後継者がいない農業者の耕作面積の合計	21.1ha
ii うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	8.7ha
iii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	4.8ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	15.5ha
(備考)	

2 対象地区の課題

・地区内の現状として、70歳以上の農業者の耕作面積は、39.7haあり、うち後継者がいない、もしくは未定の耕作面積は29.8haとなっている。今後、地域の中心経営体が引き受ける意向の耕作面積は15.5haとなっているが、新たな担い手の確保が必要である。 ・田、畑、農道等が狭小であり、形も悪いため、現状の大型トラクターや農耕車等の出入りが困難な農地が多く、条件の良い農地が少ないため、効率的な営農に支障をきたしており担い手への集積を阻んでいる。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

大規模に耕作している法人を中心とした認定農業者等の担い手へ集積を行うことで、農作業の効率化と生産性の向上を進める。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

まずは基盤整備を含めて耕作条件の改善について検討する。そのうえで、国の補助事業等を活用し機械化を推進めるとともに、農地バンクや賃貸借により有効活用を図る。 人・農地プラン地区座談会等の情報交換の場を定期的に開催し、地区で話し合いを行い、情報共有に努める。
--